

■森永太一郎 実業家。洋菓子の製造を先駆し、[森永製菓]を興した。

もりながたいちろう

薩摩藩士密航1865＝ 佐賀県伊万里で、問屋営む森永常二郎・きくの長男に生まれる。

明治維新・・1868＝ 3歳：

初の日刊新聞1870＝ 5歳：父が病死、母が再婚したため、

学問する機会も無く、親戚間を転々として育ち、

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・1874＝ 9歳：

自分の姓名すら書くことができずにいたが、

三つの反乱・1876＝11歳

漢学者川久保雄平の篤志により、彼の経営する書店に奉公しながら、手習いの指導を受け、その後、父方の伯父に引き取られ、蒔蒔・野菜の行商しながら、帳簿付けなどを身につけ、

琉球処分・・1879＝14歳：伊万里の大問屋堀七商店に奉公。

明治14年政変1881＝16歳：

岩倉具視没・1883＝18歳：伯父が出資している横浜の陶器問屋に移籍、高価な伊万里焼をさばくほどになり、

その後、勤務して恩義を感じていた道谷商店が倒産の危機に陥ると、

初の対等条約1888＝23歳：海外での陶器販売を企図して、単身渡米。全く売れずに落胆するが、やがて洋菓子上乗出すことを考え、

帝国憲法発布1889＝24歳：

帝国議会始・1890＝25歳：糊口しのぐうち、キリスト教の洗礼を受け、帰国し伝道するが失敗。再渡米し、

大本教・・・1892＝27歳：

ベーカリーやキャンディー工場などで修行を積み、

日清戦争始・1894＝29歳：

Bushidou・・1899＝34歳

*洋菓子製造方法を身につけて、帰国。東京の赤坂溜池に森永西洋菓子製造所を創業。

ビヲ/国産化・1900＝35歳

*アメリカ大使館に面した場所に移転して、英字看板挙げたところ、大使夫人の恩顧を得、在日アメリカ人から宮内省に納入する道が開け、以降、森永の名声は高まる。

田中正造直訴1901＝36歳：

日比谷公園・1903＝38歳

第5回国内勲業博覧会には特設売店を設置、3等賞得ただけでなく、宣伝広告効果で、売行きを伸ばす。

日露戦争終・1905＝40歳

エンゼルマークを商標登録し、初の新聞広告。かねて懇請していた松崎半二郎の入社条件を全て受け入れて、支配人に迎え、以後、二人三脚で事業を展開、

韓国反日暴動1907＝42歳

工場焼失して新工場を建設したのを契機に、機械化に着手。

伊藤博文暗殺1909＝44歳

アメリカから最新式の製造機械導入し、技師を招聘。

韓国併合・・1910＝45歳

株式会社化し、森永商店設立。

明治天皇没・1912＝47歳

*森永製菓と改称。

第一次大戦始1914＝49歳

紙 sack 入りの森永ミルクキャラメルを販売、ヒット商品となる。

21ヶ条要求・1915＝50歳

特約店を全国的に整備。渡米し、先進事例を視察。

ロシア革命・1917＝52歳

東京の特約店団体{信厚会}と取引上の問題で決別。以後、専属特約店制度を採用、

本格政党内閣1918＝53歳

松崎が渡米視察。

ベルサイユ条約・1919＝54歳

大ヒット商品となったミルクキャラメルで業者間の乱売が激しくなると、再び松崎が渡米視察。日本初の育児用粉乳発売。大阪の特約店団体{友進会}を組合組織に改め、

原敬首相暗殺1921＝56歳

増資による積極的拡大策が失敗し、資金的危機に陥るも克服。

関東大震災・1923＝58歳

震災被災者に菓子・ミルクを提供。直営売店森永キャンデーストアー開店。関西販売株式会社と改称。以後、全国に販売会社が設立されて行く。

治安維持法・1925＝60歳

増資による積極的拡大策が失敗し、資金的危機に陥るも克服。

直営店と同様な個人経営店をという要望が強まり、

共産党事件・1928＝63歳

統一された看板のもと、他社製品を扱わない条件で支援する森永ベルトラインストア制度を創設。

満州事変・・1931＝66歳

全国の販売会社を一元化して森永配給株式会社とし、

芥川直木賞始1935＝70歳

社長を松崎半二郎に譲って、引退。以後、キリスト教伝道に専念し、

日中戦争始・1937＝72歳

没した。